

令和7年度 第68回札幌支部高等学校柔道新人大会 要項

兼 第48回全道高等学校柔道選手権大会札幌支部大会

主催 札幌柔道連盟
共催 北海道高等学校体育連盟札幌支部

大会事務局 高体連札幌支部柔道専門部

- 1 日程 令和7年11月15日(土)
- 8時00分 開場
 - 8時10分 会場設営
 - 9時00分～9時30分 男子計量(個人)・女子計量(団体・個人)
 - 9時35分 顧問・審判会議
 - 9時50分 開会式
 - 10時15分 女子個人試合
 - 12時00分 男子個人試合
 - 16時30分 第1日目終了(予定)
- 令和7年11月16日(日)
- 8時00分 開場
 - 9時30分 女子・男子3人制団体試合 開始
 - 11時30分 5人制団体試合 開始
 - 16時00分 表彰式・閉会式(予定)

- 2 会場 千歳市開基記念総合武道館
千歳市あずさ1丁目3-1 TEL0123-22-2100

3 競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに北海道高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

ア 団体試合

- ① 試合時間3分とする。
- ② 「優勢勝ち」の判定基準は「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
- ③ チームの内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦の方法は「4 競技方法」で定める。
- ④ 男子団体は5人制または3人制のどちらかに1チームが出場することができる。

イ 個人試合

- ① 試合時間は3分とする。
- ② 「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
- ③ 試合終了時に技による評価が同等および指導差1以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。延長戦は、「有効」以上または「指導」の数に差がでた時点で勝敗を決する。また、両試合者が「指導」の累積による同時「反則負け」の場合は、スコアをリセットして延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

4 競技方法

(1) 団体試合

ア 男子 5人制

- ① 参加校を3～4校ごとに分けリーグ戦を行い、1・2位校は決勝トーナメントに出場する。(参加校数により変更する場合もある)
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム3名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認める。
- ④ 各対戦の勝敗の決定は次による。
 - I 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - II Iで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅲ Ⅱで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅳ Ⅲで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅴ Ⅳで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

代表戦の優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。「3 競技規則 (1) イ個人試合」

⑤ 予選リーグ戦の順位の決定は次による。

Ⅰ リーグ戦で勝利数が多いチームの順とする。

Ⅱ Ⅰで同等の場合は、同率校との対戦で勝利したチームの順とする。

Ⅲ Ⅱで同等の場合は、代表者 1 名によるリーグ戦を行い、順位を決定する。

Ⅳ Ⅲで同等の場合は、「一本」「技あり」「有効」「指導」の順によるスコアで順位を決定する。

Ⅴ Ⅳで同等の場合は、代表者 1 名によるリーグ戦の再試合を行い、順位を決定する。

この場合の代表者は任意とし、順位が決定しない場合は再度リーグ戦を行う。(繰り返す)

代表戦の優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。「3 競技規則 (1) イ個人試合」

⑥ 決勝トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

Ⅰ 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅱ Ⅰで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅲ Ⅱで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅳ Ⅲで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅴ Ⅳで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

代表戦の優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。「3 競技規則 (1) イ個人試合」

イ 男子 3人制

① 参加校によるトーナメント戦で行う。参加校数により予選リーグを行うこともある。

② 各チーム間の試合は点取り試合とする。

③ 試合は各チーム 2 名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認める。

④ トーナメント戦 (予選リーグ) の勝敗の決定は次による。

Ⅰ 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅱ Ⅰで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅲ Ⅱで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅳ Ⅲで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

Ⅴ Ⅳで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は引き分け対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。

代表戦の優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。なお、引き分け対戦がない場合は、両者反則負けなどで勝敗がつかない対戦を代表戦とする。また、両チームが選手の負傷などで 2 名しかおらず、引き分け対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。

※ 代表戦で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットし再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

ウ 女子

① トーナメント戦で行う。参加校数により予選リーグを行うこともある。

② 各チーム間の試合は点取り試合とする。

③ 試合は各チーム 2 名以上で行い、試合毎のオーダー変更は行わない。

④ トーナメント戦の勝敗の決定は男子 3 人制に準ずる。「イ 男子 3 人制④」参照

(2) 個人試合 (男子・女子)

ア 体重別 (4 階級) 及び無差別とする。

イ 試合はトーナメント戦とする。

5 参加資格

(1) 選手は学校教育法第 1 条に規定する高等学校 (中等教育学校後期課程を含む) に在籍する生徒であること。

(2) 北海道高等学校体育連盟に加盟している生徒。

(3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意志のある者。

(4) 令和 7 年度 (一社) 北海道柔道連盟を経て、(公財) 全日本柔道連盟に登録を完了した者。

(5) 平成 19 年 4 月 2 日以降に生まれた者 (令和 7 年 4 月 2 日現在、18 歳未満であり第 1・2 学年に

- 在籍) 同一学年の出場は1回限りとする。
- (6) チームの編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
 - (7) 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。(外国人留学生もこれに準ずる。)ただし、一家転住等の理由により、やむを得ない場合は、北海道高等学校体育連盟札幌支部長の許可があればこの限りではない。
 - (8) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
 - (9) 参加資格の特例
 - ア 上記(1)(2)に定める生徒以外で大会要項により大会参加資格を満たすと判断され、北海道高等学校体育連盟会長が推薦した生徒について、別途に定める規定に従い大会参加を認める。
 - イ 上記(5)については、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の全道大会への出場は、2回限りとする。
 - (10) 外国人留学生については、卒業を目的として入学していること(短期留学は認めない)。
 - (11) 脳震盪対応として、選手およびその指導者は下記事項を遵守すること。
 - ア 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
 - イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場ことは不可とする。(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
 - ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。
 - エ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
 - (12) 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

[大会参加資格の別途に定める規定]

- (1) 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、北海道高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- (2) 以下の条件を具備すること。
 - ア 大会参加資格を認める条件
 - ① 全国高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - ② 参加を希望する専修学校及び各種学校にあっては、学齢、修業年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。
 - ③ 各学校にあっては、部活動が教育の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失っていない、運営が適切であること。
 - イ 大会参加に際し守るべき条件
 - ① 札幌支部高等学校柔道新人大大会実施要項を遵守し、大会申し合わせ事項等に従うとともに大会の円滑な運営に協力すること。
 - ② 大会参加に際しては、責任ある教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。
 - ③ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

6 引率・監督

- (1) 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。監督は校長の認める当該校の職員または指導者とする。監督については、校長から委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則第78条の2に示された者)も可とする。
- (2) 監督の役割
 - ア 監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
- (3) 監督の行為・言動
 - ア 試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対し指示を与えることができる。
 - イ 次の行為を禁止する。
 - ① 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - ② 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

(4) 罰則規定

ア 1 回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。

イ 2 回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

7 参加制限

(1) 男子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。

60kg 級・66kg 級・73kg 級・81kg 級・無差別

1 チームの参加人数は20人までとする。

(2) 女子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。

48kg 級・52kg 級・57kg 級・63kg 級・無差別

(3) 女子は以下の階級に登録できる。

ア 団体・先鋒（52kg 以下に登録した場合）個人は、48kg 級・52kg 級・無差別のいずれかに登録できる。

イ 団体・中堅（63kg 以下に登録した場合）個人は、すべての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。

8 チーム編成

(1) 男子5人制は、監督1名・選手6名・マネージャー1名の8名とする。

3名もしくは4名で出場の場合は、後ろ詰めで配列すること。（先鋒・次鋒もしくは先鋒を空ける）

(2) 男子3人制は、監督1名・選手3名・補欠1名・マネージャー1名の6名とする。

2名で出場の場合は、後ろ詰めで配列すること。（中堅・大将で登録）

(3) 女子は、監督1名・選手3名・補欠2名・マネージャー1名の7名とする。

先鋒52kg 以下・中堅63kg 以下・大将無差別。ただし、体重の軽い者は重い階級に出場できる。

補欠は該当する階級に出場できる。また、試合当日両チームとも2名での対戦となった場合は、配列をそのままにして後に詰める（先鋒を空ける）。なお、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りとする。

(4) 外国人留学生のチーム人員は、1名以内とする。

9 参加申込

(1) 北海道札幌支部高体連柔道専門部HPより、「柔道大会申込シート」をダウンロードし、大会申込書を作成する。次の要領で送付する。

必要事項を入力し印刷後、①職印を押印後のPDFファイル②申込みエクセルデータこの2つを下記アドレスへメールにて送信する。メールの「件名」と「申込シート」は学校名で送付する。階級毎に裁断された「男女単票」を顧問会議に持参すること。

(2) 申込先 〒005-0803

札幌市南区川沿3条2丁目1番1号 市立札幌藻岩高等学校

高体連札幌支部柔道新人大会事務局 原 大輔 宛

TEL 011-571-7811 FAX 011-571-7814

メール送付先 E-mail daisuke.hara@sapporo-c.ed.jp

(3) 申込期日 令和7年10月24日（金）12:00（期日、時間厳守）

(4) 参加料 監督会議当日に納入して下さい。

男子団体 5人制 10,000円 3人制 10,000円

女子団体 10,000円

男女個人試合 1名 1,000円

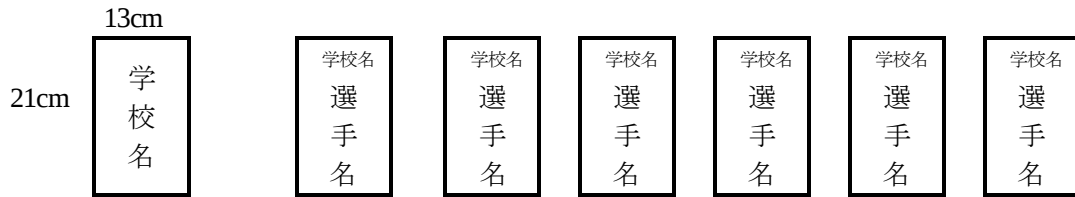
10 組合せ抽選 令和7年11月6日（木）市立札幌藻岩高等学校 会議室

11 参加上の注意 団体参加校は、規定のカード（各校で用意）に校名、選手名を書いて大会当日持参してください。[カードは対戦表の掲示に使用します。]

【カードの作成・提出について】※申込みシートで作成できます。

- ①上質用紙をA4サイズで横に半分（縦21cm・横13cm）に切り、登録者枚数分（選手変更含む）用意する。
- ②下記要領で校名・選手名（姓）を書き入れる。
- ③作成したカードは学校名入りの封筒に入れ、受付に提出する。

【カードの記入例】 右上隅に校名がわかるように記入する。



- 12 全道大会出場権
 - 団体 男子団体戦（5人制）上位8チーム
（3人制）上位6チーム
 - 個人 男子：－60・－66・－73kgは20名
－81kgは16名 無差別は24名
 - 女子：各階級力量のある者（原則、支部大会に参加していること）
- 13 その他
 - （1）試合に使用する紅白の帯は選手が各自用意する。又、所定の様式に従ったゼッケンの付いた柔道着を着用すること。
 - （2）申し込み後、団体戦の参加者に変更が生じた場合は学校長の証明（所定の様式）により、大会当日の顧問会議までに専門部へ届け出る。
 - （3）追加登録について
札幌柔道連盟に登録していない選手については、大会当日までに登録手続きをすること。（11月6日の顧問会議で登録方法については連絡します。）
 - （4）女子個人試合で参加者が少ない階級は、専門部会で検討し、2階級以上を併せて実施する場合がある。
 - （5）女子のTシャツは、白の無地または白のワンポイントまでとする。

専門部会	期 日：令和7年11月6日（木） 9時30分～ 場 所：市立札幌藻岩高等学校 1F 「会議室」 議 題：（1）新人大会の運営について （2）シード校、シード選手について （3）その他
顧問会議	期 日：令和7年11月6日（木） 13時00分～ 場 所：市立札幌藻岩高等学校 1F 「会議室」 議 題：（1）新人大会の運営について （2）抽選、組合せ （3）審判規定について （4）その他